

社会技術研究開発事業
平成19年度研究開発実施報告書

研究開発プログラム「犯罪からの子どもの安全」

研究開発プロジェクト名

「系統的な『防犯学習教材』研究開発・実践プロジェクト」

研究代表者 坂元 昂
(社団法人 日本教育工学振興会 会長)

1. 研究開発プロジェクト名

系統的な『防犯学習教材』研究開発・実践プロジェクト

2. 研究開発実施の要約

(1) 研究開発目標

本プロジェクトの最終目標は、以下の3つのシステムの確立である。

「防犯リーダーの防犯指導力育成システム」

「防犯コーディネータの防犯リーダー指導力育成システム」

「防犯指導支援システム」（「Web情報検索システム」と「防犯指導相談支援システム」を最終的に「多次的防犯指導支援システム」に統合）

上記の目標に向かい、本プロジェクトの意義を確認するための基礎情報収集とその分類・分析を行い、それらを基に、上記の3システムのイメージ案の作成を、平成19年度の研究開発目標とする。

(2) 実施項目

- ①「子どもの防犯」及び「防犯教育指導」の現状把握
- ②防犯リーダーの防犯指導力（及び防犯力）規準・基準表のイメージ案の作成
- ③多次的防犯指導支援システムのイメージ案の作成
- ④防犯教育に関するWeb情報検索システムの構築

(3) 実施内容

- ①子どもの防犯、防犯教育指導の現状把握のための基礎調査（聞き取り取材・アンケート調査・資料の収集・分類、関連サイト調査）の実施
- ②上記基礎調査を基に、防犯リーダーの防犯指導力（及び防犯力）規準・基準表のイメージ案、多次的防犯指導支援システムのイメージ案の作成
- ③防犯教育に関するWeb情報検索システムの一環としての、警察などの防犯関連コンテンツのWeb情報検索システムのデモンストレーションバージョン作成

(4) 主な結果

子どもに対する防犯教育および地域の防犯リーダー養成教育などが各地で実践されてはいるものの、系統的な防犯教育システムの整備は十分にできていないことが明確になった。さらに、保護者たちからの要望として、「一般論的な防犯教育だけではなく、地域の特性を加味した防犯教育も必要」、「全国的な防犯対策事例と自分の地域の特性の両方を知っている人が子どもたちへの教育指導者として望ましい」等の声もあり、本プロジェクトが目指す「防犯リーダーの防犯指導力育成システム」と、地域特性を生かした指導ができる「防犯指導支援システム」の必要性が明らかとなった。

以上の結果を踏まえ、これらの効果を評価測定し、PDCAで改善していくためにも、実証実験を開始する4地域を選定し、実証の事前事後の調査測定を評価する「防犯指導効果調査Webシステム」を、平成20年度に設計構築する方向性を確立した。

3. 研究開発実施の具体的内容

(1) 研究開発目標

平成19年度は、本プロジェクトの最終目標である「防犯リーダーの防犯指導力育成システム」、「防犯コーディネータの防犯リーダー指導力育成システム」、「防犯指導支援システム」の各システムの確立のための基礎データとなる「子どもの防犯」や「防犯教育指導」に関する情報を広く収集し、その分類・分析を行う。次に、それらを基に、「防犯リーダーの防犯指導力（及び防犯力）規準・基準表のイメージ案」、「多次元防犯指導支援システムのイメージ案」、「警察などの防犯関連コンテンツのWeb情報検索システム構築（デモンストレーションバージョン）」など3つの作成。

(2) 実施方法・実施内容

下記に各項目に分けて具体的に記述する。

①子どもの安全に関する基礎調査（対象：全国の教育委員会）

本プロジェクトの基礎調査として、全国各地で実施されている「犯罪からの子どもの安全に対するあらゆる取り組み」の実態把握やこれまでの成果の収集などを目的として、全国の教育委員会に向けて、書面にて調査を依頼し、これを実施した。平成20年3月18日現在で、475件の回答が集まっている。

設問の内容は、主に子ども向け防犯教育カリキュラムや資料の有無、防犯教育指導者の活動実態に関する調査データ等の有無、防犯教育の人材育成に関するカリキュラムなどの研修内容や環境、教材についての調査データ等の有無などである。その他にも、どんな資料や情報を必要としているかという要望や、防犯教育に関する意見等も自由記述の回答で収集している。

各教育委員会が所有している報告書や資料の実物については現在も継続して収集中であり、平成20年度以降の本プロジェクト進行中も常に新しい資料の提供を求めていく予定である。

②「子どもの防犯教育」に関するWeb調査（対象：保護者）

「日本国内における子どもの防犯教育には統一性がないのではないか?」、「現状の子どもの防犯教育は本当に有効なのか?」という2つの疑問を基に、現在わが国の子どもたちがどのような防犯教育を受けているのか、またそれらを保護者がどう受け止めているのかを調査し、その結果を今後の子どもに対する防犯教育の在り方を模索するための基礎資料としてまとめた。これらの資料は本研究プロジェクトの成果をより充実したものにする上で非常に重要になると考えられる。

実施期間 平成20年1月22日～1月31日

実施方法 インターネットによるWebアンケート調査

(NPO法人子どもの危険回避研究所サイト内で実施)

有効件数 1, 211件

③「子どもの防犯教育」に関するWeb調査（対象：自主防犯ボランティア）

全国各地で子ども向けの防犯講習が実施されてはいるが、果たしてそれらがすべて正しい教育か否かは疑問である。そこで、「子ども向けの安全教育の指導者を養成するべ

きである」という仮説の下に、その指導者候補として考えられる防犯ボランティア活動に携わっている人たちの実態を知るべく、本調査を実施した。

実施期間 平成20年1月22日～1月31日

実施方法 インターネットによるWebアンケート調査
(NPO法人子どもの危険回避研究所サイト内で実施)

有効件数 39件

④「子どもの防犯教育」に関する追跡Web調査（対象：小学生の保護者）

平成20年1月に実施した「子どもの防犯教育」に関するWeb調査（対象：小学生の保護者）の追跡調査として、対象者を小学生の保護者に絞った調査を実施した。調査目的は、子どもに対する防犯教育の指導者が持つべき資質や内容についての保護者の考えや要望等を詳細に把握することであり、これらの情報を自由記述の回答形式で答えてもらうことで収集した。なお調査項目の中には、保護者たち自身が防犯教育指導者となることについての意見や志の有無も加えている。

実施期間 平成20年3月14日～3月31日

実施方法 インターネットによるWebアンケート調査
(NPO法人子どもの危険回避研究所サイト内で実施)

有効件数 180件

(現在、集計・分析中。結果は来期の報告書に記載予定。)

⑤行政等による防犯指導者育成事業に関する情報収集

全国各地で実施されている「防犯リーダー養成」を目的とした事業の詳細（対象者・規模・日程・カリキュラム内容など）を調査し、主な事業事例の一覧を作成した。これは平成20年度以降の研究開発のための基礎資料とするものである。

⑥防犯リーダーの防犯指導力 規準・基準表のイメージ案作成

本プロジェクトの目白大学社会学部・原 克彦 教授が「教員のICT活用指導力向上のための形成的な評価方法の開発と実用化」の研究の際に作成した「教員のICT活用能力基準表」を参考に、防犯リーダーの防犯指導力の「規準表」及び「基準表」のイメージ案を作成した。

⑦多次元防犯指導支援システムのイメージ案作成

本プロジェクトの東京大学生産技術研究所・目黒 公郎 教授が「既存不適格建物の耐震補強を推進するための方策の提言」の研究の際に作成した「多次元分析／評価機能による分析例」を参考にして、先述した「防犯リーダーの防犯指導力 規準・基準表のイメージ案」を活用して、「子どもの防犯」版のイメージ案を作成した。

⑧防犯関連サイト及びコンテンツ調査と分析

約3,600件の既存の防犯関連サイト及びコンテンツ（主に警察関連サイト）をネット上から抽出し、それぞれにキーワードを設定し、整理・分類した。

⑨防犯関連コンテンツのWeb情報検索システム構築

本プロジェクトの園田学園女子大学未来デザイン学部 堀田 博史 准教授が専門としているe-ラーニングサイトの開発と評価技術を駆使し、先述した既存の防犯関連サイト及びコンテンツを様々なキーワードによって検索できるWeb情報検索システムを試作し、そのデモンストレーションバージョンを作成した。

⑩防犯関連活動従事者へのインタビュー調査

NPO法人 子どもの危険回避研究所のネットワークを活用し、2地域において、それぞれ、行政関係者・警察関係者・学校関係者・地域の活動者の合計36名にインタビュー調査を実施した。防犯対策やそれに関わる人々が特定できる情報の公表は危険が伴うため、地域や取材対象者の詳細、取材レポート等の公表は控えるが、インタビュー調査の結果からは、地域における防犯対策の現状や防犯教育指導への要望等がある程度明らかになったので、これらを本プロジェクトの基礎情報として活用していく。

⑪子どもの防犯に関連する書籍・冊子・DVD・CD-ROM等々の収集

これらの資料の収集については、本プロジェクトの継続期間中、常に最新の資料を継続的に収集していく。

(3) 研究開発結果・成果

本年度の主な結果と成果を以下に述べる。

①本プロジェクトの意義の裏づけとなる基礎調査結果

平成19年度において実施した基礎調査の結果、以下で説明する点を実証され、本プロジェクトの意義の裏づけとなった。さらにこれらのデータから、保護者や教育委員会からの具体的な要望を明確に把握できるとともに、来年度以降の研究開発の具体的な方向性や内容を決定する上で重要な材料を得ることができた。

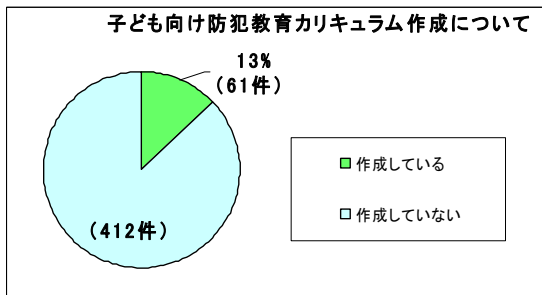
基礎調査の結果・考察1.

多くの教育委員会において「子どもの安全」が最重要テーマという共通認識は感じられたものの、実際に「子ども向け防犯教育カリキュラムや資料（報告書、パンフ、ビデオ、CD-ROMなど）」を作成していると回答した教育委員会は、有効回答数の約13%、「防犯指導者向け防犯教育カリキュラムや資料（報告書、パンフ、ビデオ、CD-ROMなど）」の作成に至っては約8%と、ともに低い値となっている。（グラフ1・2参照）

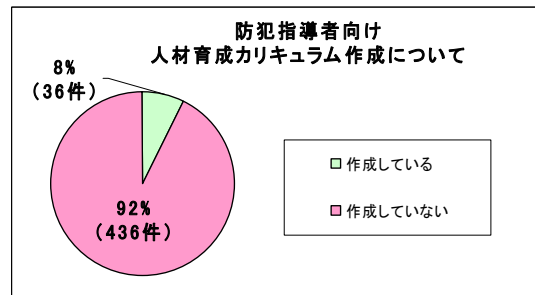
また、各教育委員会の要望や意見・悩みとしては、「防犯指導に関する情報が欲しいが、入手の方法がわからない」、「経費面の制約もあり、防犯の費用対効果を実感しにくい」、「不審者情報を入手した上でどう対応するかにまで考えが至っていない」、「他の教育委員会の取り組みや所有情報などを知りたい」等と言う声が多かった。

本プロジェクトで最終目標としているものは、まさにこれらの問題解決や要望に応えるものであり、本プロジェクトの意義の高さや目標に誤りが無いことが改めて認識できた。本プロジェクトでは、今後も各教育委員会に資料の提供や意見抽出を求めながら研究開発を進めていく。

<グラフ1>



<グラフ2>



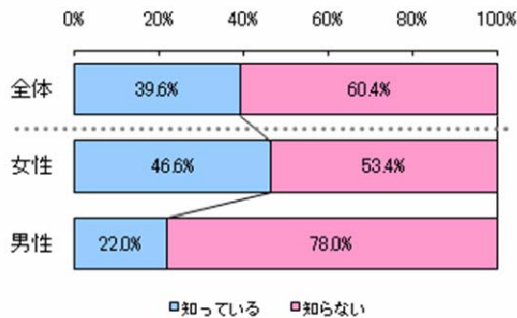
基礎調査の結果・考察2.

子どもたちが学校からどのような防犯教育を受けているのかを認識していない保護者が非常に多い。また小学生の子どもを持つ母親たちに関しては、認識しているつもりでも、実際は「防犯教育」と「防犯対策」の意味を誤解しているなど、具体的に詳細を周知している状態ではなく、そもそも「防犯教育とは何か」に関する保護者たちの理解が希薄なことがわかった。(グラフ3～5参照)

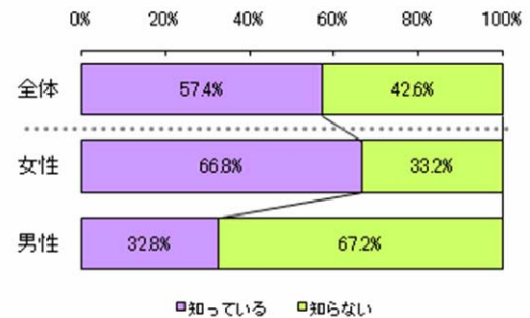
<グラフ3・4>

学校が子どもたちに対して、どのような防犯教育をしているかを知っていますか？
 という問いに対する保護者たちの回答

グラフ3：3～18歳の保護者の回答

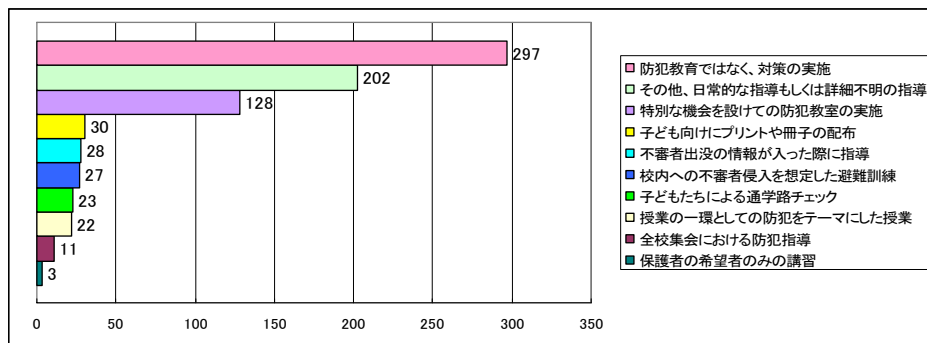


グラフ4：小学生の保護者の回答



<グラフ5>

学校が子どもたちに対して、どのような防犯教育をしているかを「知っている」と答えた保護者に、その内容を尋ねた結果



(単位：件)

※「防犯教育ではなく、対策の実施」には、以下のようなものが含まれる。

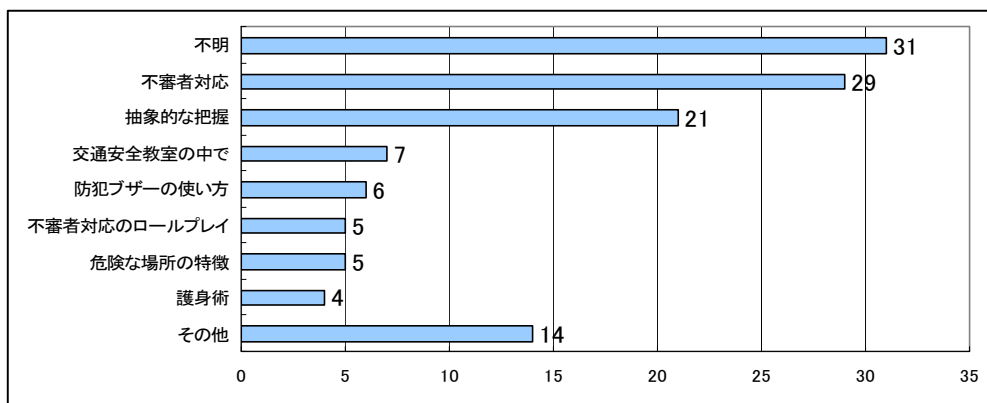
(集団下校、大人による通学路の危険箇所チェック、防犯ブザーの配布、登下校の見守り、パトロール、不審者情報のプリントやメール配信、子ども110番の家の配備、校門の施錠、学校訪問者チェック、警備員配備、防犯カメラ設置など)

基礎調査の結果・考察3.

保護者たちは、学校で子どもたちがどのような防犯教育を受けているかを知っているようで知らない状況である。学校側としては、学校で指導していることをもう一度家庭でもと考えているが、それができていない。また、内容が「不審者対応」に偏りすぎている傾向がある。(グラフ6参照)

<グラフ6>

グラフ5の中の「特別な機会を設けての防犯教室の実施」という回答の講義内容による内訳



(単位：件)

※「抽象的な把握」の中には、「安全教育」「防犯教育」などが含まれる。

※「その他」の中には、「いじめや不審者から自分の身を守る方法」「インターネット犯罪」「自転車の乗り方」「万引き防止の指導」などが含まれる。

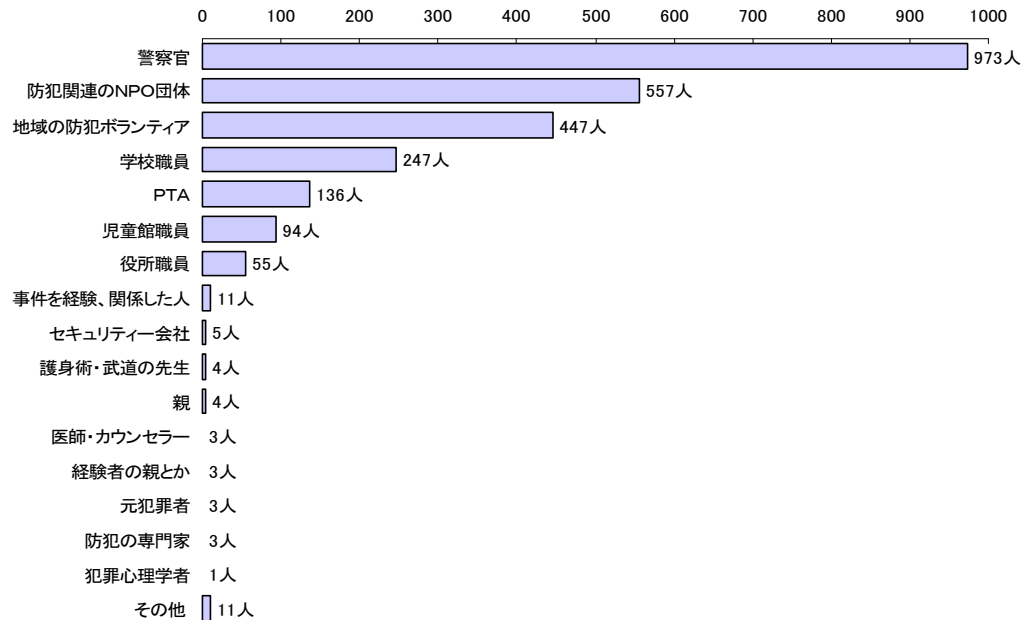
基礎調査の結果・考察4.

保護者たちの中では、子ども向けの防犯に関する講義の講師として「警察官」が望ましいと考えている人が非常に多い。しかし警察官には本業である犯罪捜査や検挙活動に支障がでない範囲でしか防犯講義に関われないという限界がある。その一方で、「防犯関連のNPO団体」や「地域の防犯ボランティア」に対する期待も高く、「学校職員」に大差をつけて、2位・3位となっている。これらの結果からは、「防犯関連のNPO団体」や「地域の防犯ボランティア」が講師となって、子どもに効果的に防犯指導ができる環境を実現するための支援プログラムの構築が、求められていることがわかる。(グラフ7参照)

<グラフ7>

子ども向けの防犯に関する講義の講師として、望ましい立場の人は？との問いに対する保護者たちの回答。（選択肢による複数回答可）

講師として望ましい人



※防犯関連のNPO団体に講師を希望する理由（アンケート回答より一部抜粋）

- ・ 居住する地域の情報だけではなく、他地域を含めた広域における状況を知りたいため。
- ・ 一番偏りがなく、知識も豊富そうなので。
- ・ 警察官は護身のプロだが、いざ子供向けかと聞かれると疑問があるので、やはりその道のプロということで・・・。
- ・ 保護者の目線に近そう。

※地域の防犯ボランティアに講師を希望する理由（アンケート回答より一部抜粋）

- ・ 地域に根ざしていることと、実務的であるから。
- ・ まかせるよりも、地域が取り組むべきなので。
- ・ 知り合いの人から学ぶほうが、子供にとっては良い影響をおよぼすと思うから。
- ・ 親身さが違うと思うから。
- ・ 実際に活動しているボランティアの人に、実際の体験談や日頃感じていることを聞きたいから。

②自主防犯ボランティアに対する調査によって浮き彫りとなった現状と将来の展望

今回の自主防犯ボランティアを対象としたWebアンケート調査の回収率が低かった原因として、活動している自主防犯ボランティアの多くが中高年齢層であるため、Webアンケートに応募することが難しかったことが考えられる。また、このアンケート調査を広く周知させるために、自主防犯ボランティアの支援のネットワークサイトなど

に登録されているメールアドレスやFAX番号にアンケート調査の告知を行ったが、これらの連絡先の多くはつながらなかった。この結果から、担当者の変更にもなって連絡先などの更新が適切にされていないなど、ネットワークの更新や引継ぎがうまくいっていない状況が推測される。

また、彼らの主な活動は「パトロール」であるが、それがどれくらい効果的なのか、パトロール以外にどんな活動をすべきかについて悩んでいることもわかった。そこで、これらの結果からは、保護者たちが期待しているように、自主防犯ボランティアの中から子どもたちに防犯指導できる人材を発掘し、育成していくことが望ましいと考えられる。

さらに、このような自主防犯ボランティアの現状を考慮し、本プロジェクトで構築するWebシステムにおいては、中高年齢層の利用者にも使いやすくわかりやすいこと、常に最新情報を受け取ることができることを重要視したシステムを目指す必要がある。その具体的な工夫については、来年度以降に検討していく予定である。

③防犯リーダーの防犯指導力 規準・基準表のイメージ案

既存の防犯リーダー育成プログラムを、この規準表・基準表に位置づけることにより、それらの重複関係や手薄な領域が明示され、系統的な防犯指導者育成プログラムの開発の基盤として活用出来る。

平成20年度以降の研究開発においては、系統的な防犯指導者育成プログラム開発の基盤として活用できる規準・基準表を具体化していく。

防犯指導力規準表(2008年度イメージ版)			Copyright JAPET	
領 域		レベルA	レベルB	レベルC
大項目	中項目	防犯基礎リーダー 一般の保護者、教員 (効果的な指導ができる)	防犯指導リーダー 地域の指導者 (地域で指導できる)	防犯コーディネータ (地域で指導・推進できる)
2 防犯指導の実践	1 防犯指導の計画	① 防犯のねらいを実現する具体的な指導計画ができる。 ② 防犯指導を計画するにあたり、防犯指導カリキュラムに基づいた系統性を意識できる。	① 防犯のねらいを実現する効果的な指導計画の立て方について防犯基礎リーダーに説明できる。 ② 防犯指導を計画するにあたり、防犯指導カリキュラムに基づいた系統性を防犯基礎リーダーに説明できる。	① 防犯のねらいを実現する効果的な指導計画の立て方について指導リーダーに指導助言できる。 ② 防犯指導を計画するにあたり、防犯指導カリキュラムに基づいた系統性を防犯指導リーダーに指導助言できる。
	2 防犯指導の準備	① 防犯指導の対象に応じた資料や課題の準備できる。 ② 実施する内容に応じて用具を活用することが適切かどうかを判断できる。	① 防犯指導で利用する資料や教材の適切な使用方法について理解し、地域の研修等で指導できる。 ② 実施する内容や対象(子どもの段階)に応じて、適切な環境・条件を整え指導できる。	① 防犯指導で利用する資料や教材の適切な使用方法について理解し、防犯指導リーダーに指導助言できる。 ② 実施する内容や対象(子どもの段階)に応じて、適切な環境・条件を企画・立案、提案できる。
	3 防犯指導の実践	① 防犯指導のねらいをバランスよく実現する研修ができる。 ② 伝達型の研修だけでなく、ワークショップ型の防犯指導について実践できる。	① 防犯指導のねらいを実現するモデル研修を実施し、地域内で有効な指導方法の提案ができる。 ② ワークショップ型の研修を実施し、防犯における問題解決の方法などを実践できる。	① 防犯指導のモデルを紹介し、地域の防犯リーダーに対して有効な指導方法や、教材の活用方法の提案ができる。 ② 問題解決型の防犯指導の実践を紹介できると共に、その指導法について防犯指導リーダーに指導できる。
	4 子どもへの防犯指導	① 子どもの実態に応じて、工夫しながら防犯指導おこなう事ができる。 ② 子どもの実態に応じた防犯関連用具を活用して、知識の定着や技能の習得を図れるように指導できる。	① 子どもの実態に応じた防犯指導の方法について、防犯基礎リーダーに指導できる。 ② 子どもの実態に応じた防犯関連用具を活用した指導法について防犯基礎リーダーに指導できる。	① 子どもの実態に応じた防犯指導の方法について、防犯指導リーダーに対して指導ができ、地域の実態に応じた計画が立案できる。 ② 子どもの実態に応じた防犯関連用具を活用した指導法について防犯指導リーダーに助言・指導ができる。

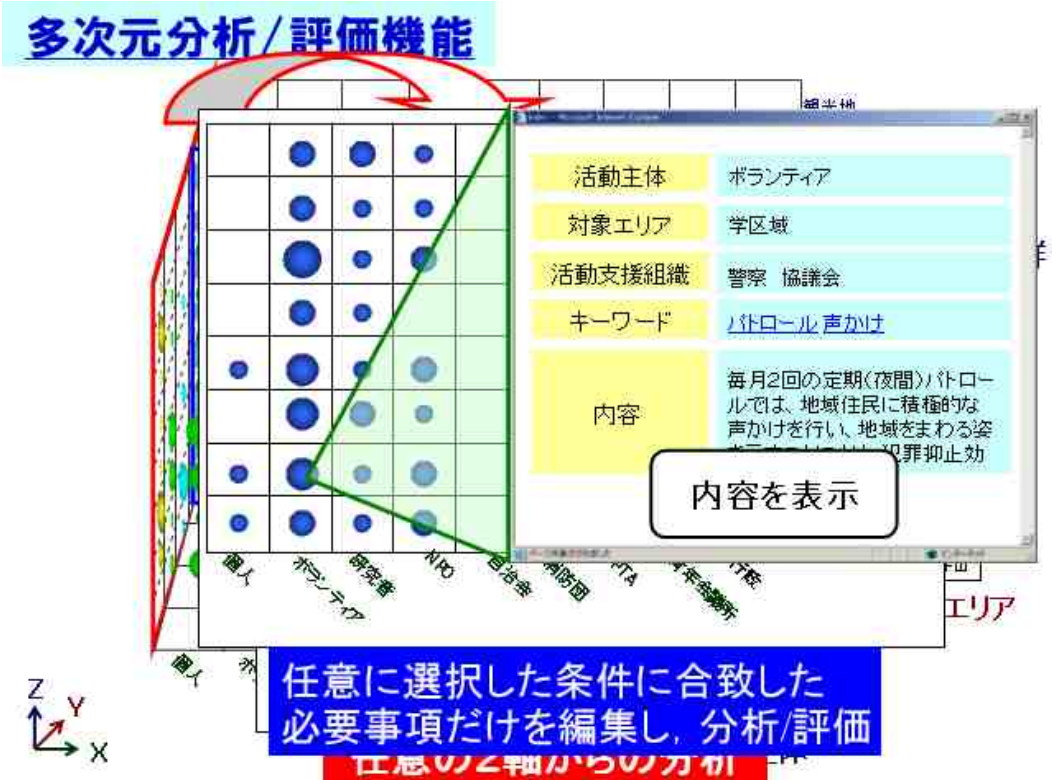
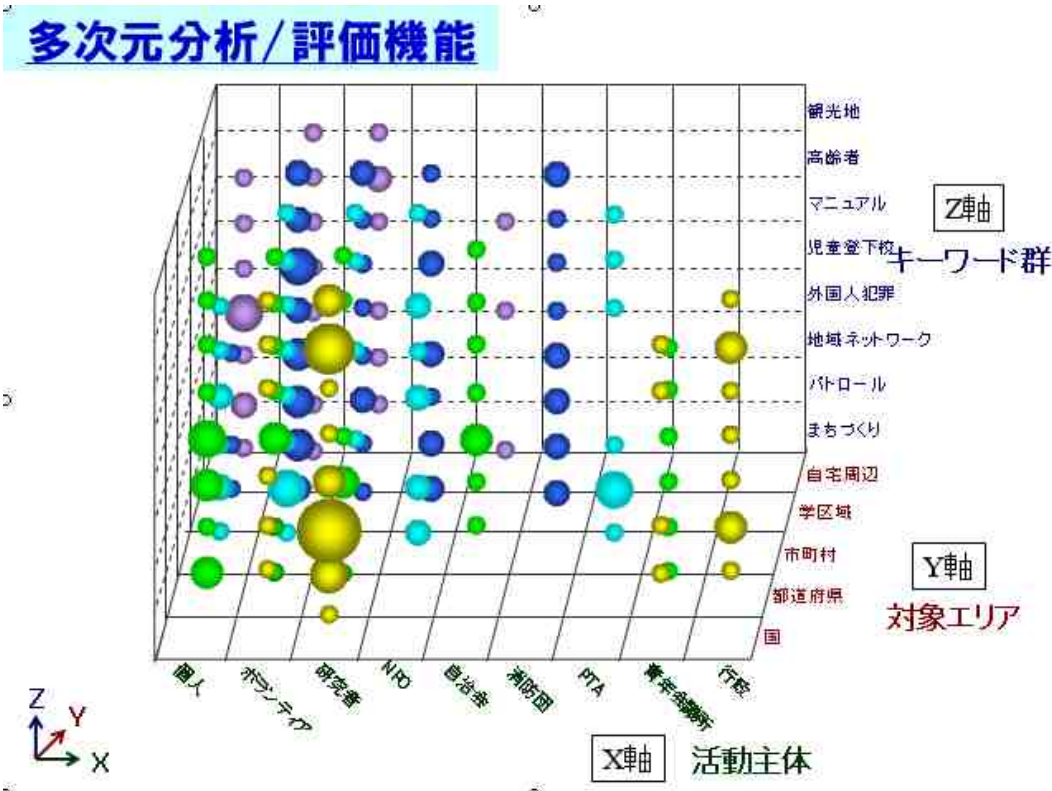
3 防犯指導の実践	① 防犯指導のねらいをバランスよく実現する研修ができる。	① 防犯指導のねらいを実現するモデル研修を実施し、地域内で有効な指導方法の提案ができる。	① 防犯指導のモデルを紹介し、地域の防犯リーダーに対して有効な指導方法や、教材の活用方法の提案ができ、問題解決型の防犯指導の実践が紹介できると共に、その指導法について防犯指導リーダーに指導できる。
	② 伝達型の研修だけでなく、ワークショップ型の防犯指導について実践できる。	② ワークショップ型の研修を実施し、防犯における問題解決の方法などを実践できる。	② 子どもの実態に応じた防犯指導の方法について、防犯指導リーダーに対して指導ができ、地域の実態に応じた計画が立案できる。
4 子どもへの防犯指導	① 子どもの実態に応じて、工夫しながら防犯指導おこなう事ができる。	① 子どもの実態に応じた防犯指導の方法について、防犯基礎リーダーに指導できる。	① 子どもの実態に応じた防犯指導の方法について、防犯指導リーダーに対して指導ができ、地域の実態に応じた計画が立案できる。
	② 子どもの実態に応じた防犯関連用具を活用して、知識の定着や技能の習得を図れるように指導で	② 子どもの実態に応じた防犯関連用具を活用した指導法について防犯基礎リーダーに指導できる。	② 子どもの実態に応じた防犯関連用具を活用した指導法について防犯指導リーダーに助言・指導ができる。

④防犯リーダー育成プログラム構築に向けた「防犯能力と指導法のマトリックス」案

上図の「防犯指導力規準表」イメージ版の領域 大項目2の「防犯指導の実践」の中項目の「3. 防犯指導の実践」「4・子どもへの防犯指導」に係わる基準としては、子どもの犯罪に対する防犯能力について、上記に示したような子どもへの犯罪の・種類・発生条件・程度に対応した防犯活動を指導する能力を分析整理し、「規準表・基準表」にまとめる。各セルに対応する防犯活動育成能力は、防犯能力として第1軸に、防犯知識（安全情報、危険情報、脱出情報）／防犯技能（脱出技能、待避技能、防御技能、誘導）／防犯注意力（危険察知、拡散注意、集中注意）／問題解決力（回避行動計画、回避経路発見）／コミュニケーション力（声かけ、警告、予告、指示、合図、説明、情報収集）を配し、防犯指導法として第2軸に、先行オルグ／教示／解説／説明／インドクトリネーション／図解／動画提示／反復練習／KR／スモールステップ提示／認知のズレ／クイズ／ゲーム／ロールプレイ／シミュレーション／メタ認知／実践／発言／警告／報告／救助／コーチング／評価改善／マイクロティーチングを位置づけ、マトリックスを構成する。

防犯活動育成能力		防犯指導法																							
		揭示技法						指導技法				問題解決学習						支援活動							
		先行オルグ	教示	解説	説明	インドクトリネーション	図解	動画提示	反復練習	KR	スモールステップ提示	認知のズレ	クイズ	ゲーム	ロールプレイ	シミュレーション	メタ認知	実践	発言	警告	報告	救助	コーチング	評価改善	マイクロティーチング
防犯能力	防犯知識		○	○	○	○	○																		
	危険情報		○	○	○		○	○						○	○	○									
	脱出情報		○	○	○		○	○																	
	防犯技能		○	○			○	○	○	○								○						○	
	脱出技能		○	○			○	○	○	○								○						○	
	待避技能		○	○			○	○	○	○								○						○	
	防御技能		○	○			○	○	○	○								○						○	
	誘導		○	○																					
	防犯注意力									○				○	○	○									
	危険察知									○				○	○	○									
拡散注意									○																
集中注意									○																
問題解決力																							○		
回避行動計画																							○		
回避経路発見																							○		
コミュニケーション力																									
声かけ																									
警告																									
予告																									
指示																									
合図																									
説明																									
情報収集																									

⑤多次元防犯指導支援システムのイメージ案



防犯指導力基準表との連携

防犯指導力の学習に必要な教材の認識

防犯指導力と既存の活動との関連を分析/評価

防犯指導力基準表	防犯指導法																								
	先行オラクル	教示	解説	説明	イラストレーション	図解	動画提示	反復練習	VR	スモールステップ構築	認知のズレ	ケース	ゲーム	ロールプレイ	シミュレーション	ソクパズル	英検	発言	警告	組合	教則	マンガ	辞書	マイク	
安全情報	○	○	○			○	○																		
危険情報	○	○	○			○	○						○	○	○										
脱出情報	○	○	○			○	○					○	○	○											

活動主体	自治会
対象エリア	学区域
活動支援組織	NPO
キーワード	地図づくり 街あるき
内容	防犯DIGIは参加者が、地図を囲み、その上から様々な色を塗り、書き込みを行うことで、防犯の観点から見た「わがまちのつくり」を発見する手法です。

防犯指導教材 学術的根拠の表示

関連活動事例

活動主体	青少年協議会
対象エリア	学区域
活動支援組織	行政
キーワード	地図づくり 街あるき
内容	各地区における防犯講習会、懇談会、防犯パトロール、ワークショップを実施してきました。その結果、青少年の非行防止や不審者等の連や

関連活動事例の表示

防犯指導力基準表との連携



防犯指導力基準表	防犯指導法																								
	先行オラクル	教示	解説	説明	イラストレーション	図解	動画提示	反復練習	VR	スモールステップ構築	認知のズレ	ケース	ゲーム	ロールプレイ	シミュレーション	ソクパズル	英検	発言	警告	組合	教則	マンガ	辞書	マイク	
安全情報	○	○	○			○	○																		
危険情報	○	○	○			○	○						○	○	○										
脱出情報	○	○	○			○	○					○	○	○											
脱出技能	○	○				○	○	○										○						○	
待避技能	○	○				○	○	○										○						○	
防制技能	○	○				○	○	○										○						○	
誘導	○	○																							
危険察知									○			○	○	○											
拡散注意									○																
集中注意									○																
回避行動計画						○	○																	○	
回避経路発見						○	○																	○	
声かけ																									
警告																									
予告																									
指示																									
合図																									
説明																									
情報収集																									

これらの図は、加害条件（加害者、時刻、場所など）、研究開発情報、実践情報、成果情報、など多角的な検索事項によって、防犯や防犯指導活動に関して必要となる情報を抽出して参照できる「多次元的評価・検索機能を持ったデータベースを用いた子ども向け防犯指導活動支援システム（略称：多次元的防犯指導支援システム）」のイメージ案であり、既存の防犯活動、防犯指導活動に関する様々な情報を、利用者のニーズに応じて抽出して提供するシステムである。警察系、教育委員会系、自治体系、PTA系、企業系、NPO系など多くの団体、機構がこれまでに積み上げてきた知の成果を相互に有効活用できる環境の構築を目指す。

この多次元的防犯指導支援システムが機能すれば、既存の防犯活動や防犯指導活動に関する多面的な情報を提供することができ、防犯リーダー、防犯コーディネータの育成やその後の活動に、大きな役割を果たすと考えられる。

⑥防犯関連コンテンツのWeb情報検索システム構築

平成20年度以降は、調査結果のデータベース化と、検索や情報共有を可能とする環境整備をさらに進める。そして、Web情報だけでなく、防犯関係で市販されている書籍やDVDをWebサイト情報と交えたデータベース化を目指す。また同時に防犯指導相談支援システムの設計、構築を進め、Web情報検索システムとともに、最終形としての多次元的防犯指導支援システムへの統合への準備を行う。

子どもを守るためにできること

トップページ 相談ブログ

以下の条件で検索 全ての条件をクリア

キーワード

※空白で区切って、複数のキーワードを入力できます。
(全てのキーワードを含む項目が検索されます。)

都道府県名

全ての都道府県

北海道
青森県
岩手県
宮城県
秋田県
山形県
福島県
茨城県
栃木県
群馬県
埼玉県
千葉県

コンテンツ(複数可)

活動報告

- 地域安全マップ(子ども)
- 地域安全マップ(大人)
- 地域安全マップの作成
- 防犯パトロール
- 青色防犯パトロール
- いじめ・虐待
- 少年サポートセンター
- 運動・キャンペーン

情報提供

- pdfでの情報提供
- 事業・申請手続き
- 防犯教室・講習会(子ども)
- 犯罪発生マップ
- 不審者情報
- 統計資料
- 条例・法律・指針・通達
- 便り・広報誌

人材募集・育成

- 防犯リーダー
- 防犯ボランティア

防犯関連コンテンツのWeb情報検索システムのデモ画面



検索の結果 31 件見つかりました。

[宮城県警察／生活安全企画課／子どもが犯罪被害に遭わないために](#)

宮城県警察

【防犯啓発・対策】

子どもが犯罪被害に遭わないために地域みんなで、子どもを犯罪から守りましょう。

[犯罪発生マップ](#)

宮城県警察

【犯罪発生マップ】

犯罪発生マップ

[宮城県警察／地域安全活動](#)

宮城県警察

(4) 開催したワークショップ、シンポジウム、会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
平成19年 10月19日	平成19年度 研究開発リーダー 会議準備会	社団法人 日本教育工学振 興会会議室	「犯罪からの子どもの安全」 プロジェクトに関する概論 説明 目白大学原Gの役割 他
平成19年 10月22日	平成19年度 研究開発リーダー 会議準備会	社団法人 日本教育工学振 興会会議室	プロジェクトに関する概論説 明 園田学園女子大学堀田 Gの役割 他
平成19年 10月26日	平成19年度 研究開発リーダー 会議準備会	社団法人 日本教育工学振 興会会議室	プロジェクトにおける原Gの 研究開発項目 他
平成19年 11月6日	平成19年度 研究開発リーダー 会議準備会	東京大学生産技 術研究所 目黒研究室	プロジェクトに関する概論説 明 東京大学目黒Gの役割 について
平成19年 11月9日	平成19年度 研究開発リーダー 会議	社団法人 日本教育工学振 興会会議室	「犯罪からの子どもの安全」プ ロジェクトに関する概論説 明・課題のグループ相互の関 係について 他
平成19年 11月26日	平成19年度 研究開発のための WG会議	社団法人 日本教育工学振 興会会議室	坂元+横矢Gでの調査項目、対 象、手法等の検討 教育委員 会への調査項目案検討

平成19年 12月14日	平成19年度 研究開発のための WG会議	東京大学生産技 術研究所 目黒研究室	既存データ収集等の調査につ いて打合せ
平成20年 1月7日	平成19年度 研究開発のための WG会議	東京大学生産技 術研究所 目黒研究室	東大目黒研究所及び子どもの 危険回避研究所の坂元プロ ジェクト開始のための打ち 合わせ
平成20年 1月15日	平成19年度 研究開発リーダー 会議	東京大学生産技 術研究所 目黒研究室	1月10日付にてR I S T E Xに 承認された19年度年次計画 及び全体計画最終案につい て・子どもの安全に関する共 通認識 他
平成20年 1月30日	平成19年度 研究開発リーダー 会議	東京大学生産技 術研究所 目黒研究室	子どもの安全基礎調査報告・ヒ アリング調査報告・調査デー タの分類分析の手法等につ いて 他
平成20年 2月12日	平成19年度 研究開発リーダー 会議	東京大学生産技 術研究所 目黒研究室	R I S T E X全体の研究の進 捗・子どもの安全基礎調査、 全国警察Web調査報告・全体 計画、予算について 他
平成20年 2月25日	臨時会議	社団法人 日本教育工学振 興会会議室	来期予算、来期計画について・ 3月18日プレゼンについて・ 全体の共通認識について 他
平成20年 2月28日	平成19年度 研究開発リーダー 会議	東京大学生産技 術研究所 目黒研究室	子どもの安全基礎調査、全国警 察Web調査報告・全体計画、 予算について 他
平成20年 3月5日	平成19年度 研究開発リーダー 会議	東京大学生産技 術研究所 目黒研究室	19年度研究開発プロジェクト 報告会に向けてプレゼン資 料検討・20年度年次研究開発 計画書提出に向けて計画書 案検討 他
平成20年 3月18日	19年度研究開発 プロジェクト 報告会	社会技術研究開 発センター	19年度研究開発プロジェクト プレゼン報告

(5) 研究開発実施におけるその他の活動
 当該年度については、該当する活動はなし。

4. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況
 当該年度については、該当する活動はなし。

5. 研究開発実施体制

(1) 研究代表者のグループ（+基礎調査：子どもの危険回避研究所）（G1）

①リーダー：（社）日本教育工学振興会 会長 坂元 昂

②実施項目

総括業務

- ・プロジェクト全体の研究開発内容のとりまとめ、指示、研究開発進行管理
- ・全体リーダー研修の開催

情報収集及び調査分析

- ・子どもの安全に関する基礎調査（対象：全国の各教育委員会）の実施
- ・「子どもの防犯教育」に関するWebアンケート調査（対象：保護者）の実施
- ・「子どもの防犯教育」に関するWebアンケート調査（対象：自主防犯ボランティア）の実施
- ・「子どもの防犯教育」に関する追跡Webアンケート調査（対象：小学生の保護者）の実施
- ・行政等による防犯指導者育成事業に関する情報収集
- ・防犯関連活動従事者へのインタビュー取材の実施
- ・子どもの防犯に関連する書籍・冊子・DVD・CD-ROM等々の収集

(2) 多次元防犯指導支援システム構築グループ（G2）

①リーダー：東京大学生産技術研究所 教授 目黒公郎

②実施項目

- ・多次元防犯指導支援システムのイメージ案の作成
- ・防犯関連活動従事者へのインタビュー取材の実施
G1の防犯関連活動従事者へのインタビュー取材（2地域における行政関係者・警察関係者・学校関係者・地域の活動者 計36名）に随行し、多次元防犯指導支援システム構築に向けた情報収集を行った。

(3) 防犯指導力育成プログラム構築グループ（G3）

①リーダー：目白大学社会学部 教授 原 克彦

②実施項目

- ・G1の調査ならびにG4のデータベースを参考にした防犯リーダーの防犯指導力規準・基準表のイメージ案の作成

(4) 防犯関連支援システム構築グループ（G4）

①リーダー：園田学園女子大学未来デザイン学部 准教授 堀田博史

②実施項目

- ・防犯関連サイト及びコンテンツの調査と分析
- ・防犯関連コンテンツのWeb情報検索システムの構築

6. 研究開発実施者

①研究代表者のグループ（+基礎調査：子どもの危険回避研究所）（G1）

氏名	所属	役職
坂元 昂	(社) 日本教育工学振興会	会長
横矢 真理	NPO子どもの危険回避研究所	所長
森田 和夫	(社) 日本教育工学振興会	事務局長
増田 迪博	(社) 日本教育工学振興会	調査部長

②多角的防犯指導支援システム構築グループ（G2）

氏名	所属	役職
目黒 公郎	東京大学生産技術研究所	教授
近藤 伸也	人と防災未来センター	主任研究員
阿部 真理子	東京大学生産技術研究所	大学院

③防犯指導力育成プログラム構築グループ（G3）

氏名	所属	役職
原 克彦	目白大学社会学部	教授

④防犯関連支援システム構築グループ（G4）

氏名	所属	役職
堀田 博史	園田学園女子大学未来デザイン学部	准教授
稲熊 孝直	園田学園女子大学国際文化学部	助教
内橋 美佳	園田学園女子大学国際文化学部	助手

7. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 論文発表
なし

(2) 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）
なし

(3) 新聞報道・投稿、受賞

①新聞報道・投稿

平成20年1月26日（土）第12673号（日刊） 朝日小学生新聞の「耳より情報」コ

一ナーにて、Webアンケートの告知が掲載された。以下、掲載文の一部抜粋。

『NPO法人子どもの危険回避研究所が子どもの防犯教育に関するアンケートをサイト上で行っていきます。調査結果は、所長の横矢真理さんがかかわる、子ども自身が防犯力をつけたり、防犯教育を行うためのリーダーを育てたりする計画に、生かして行く予定です。（後略）』

②受賞 なし

- (4) その他の発表・発信状況、アウトリーチ活動など
当該年度については、該当する活動はなし。